

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
1	H30.6	各事業所・企業が設置している防犯カメラの角度を公道に向けるよう区・警察・町会が連携し、協力依頼を実施してほしい。	防犯協会に加盟している事業所・店舗を手始めに、公道付近にカメラ角度を向けていただくよう、区・警察が連携して協力依頼するとともに、区から地域へ協力が得られそうな事業所・店舗の情報提供を呼びかけていく。	①
2	H30.6	防犯抑止力向上のために、防犯プレートの作成枚数を増やしてほしい。	地域の要望にできるだけ応えられるよう、プレート作成枚数の増について検討していく。	①
3	H30.6	防犯プレートの色は白色だと目立たないので、目立つ色にして欲しい。	現在の白色プレートを、抑止効果のある目立つ色に取り換えていく。また、今後作成する防犯プレートも目立つ色にしていく。	①
4	H30.6	「車上狙い」「部品狙い」が多発しているが、どんな対応をするのか。	街頭犯罪件数は毎月拵んでいる。「車上狙い」は車だけではなく、駐輪している自転車にも当てはまり、注意喚起する啓発ポスターを企業に掲示依頼するとともに、区ホームページに掲載し防犯啓発を推進していく。	①
5	H30.6	「高齢者交通安全研修会」の回数を増やして欲しい。「ふれあい喫茶」などの機会を通じて、「高齢者交通安全」や「特殊詐欺」のことについて、説明していただきたい。	「高齢者交通安全研修会」や「特殊詐欺の出前講座」は、既に警察と連携し区民センターや地域の老人会等で実施しているが、引き続き、地域からの要望に応じ実施していく。	①
6	H30.6	高校生の自転車マナーの悪さが目立ち、通学時間帯には危険な運転をしている学生が多いため、先生に、通学路途中にも立ってもらい実態の把握をしてもらったらかどうか。	学校協議会の場や学校へ直接連絡するなどして、学生の自転車マナー等を伝え交通安全についての啓発を働きかける。	①
7	H30.6	各年齢層に対する交通安全への意識を向上させてほしい。	スクエアドストレート方式による交通安全教室の開催を様々な広報媒体を活用し広報していく。また、加害者となった場合の罰則や賠償等を伝え加害者とならないための啓発を行う。	①
8	H30.6	今後各地域で実施する「避難所開設運営訓練」において、地域内にある事業所等にも声をかけて、事業所が参加できるような訓練の実施をしてはどうか。	「災害時地域貢献協力事業所」の情報を地域と共有し、今後開催する訓練への参加を区から事業所に働きかけるとともに、地域からも呼びかけを行うよう依頼する。	①
9	H30.6	避難所開設運営訓練を実施する様子を、他地域からも見学に行ってはどうか。	実際に訓練の様子を見てもらうことで、参考となることや気づきがあると思われることから、避難所開設運営訓練を予定している地域とも調整を図り、地域防災連絡会などで訓練の予定等の情報を伝え、見学に来てもらえるように周知する。	①
10	H30.6	災害時に地域の中核となって様々なことを運営できるような人材として、区役所が防災士を育成してはどうか。	各地域において防災士の資格をお持ちの方を探していただきながら、その方の協力を得て、地域の自主防災力向上をめざす。区においても職員の防災士の資格取得をすすめていく。	①
11	H30.6	大災害発生時、電話は通信制限がかかることから通じなくなる。しかし、LINEを始めとするSNSは大災害時でも支障なく使えることから、通信手段として有効に利用したらよいのではないか。	災害時LINEが通信手段としては大変有効であることが実証できている。LINEを積極的に活用するよう、広報紙や区ホームページなどで周知を行う。職員訓練等でも検証を図っていく。	①
12	H30.6	小学校などに設置されている防災行政無線のスピーカーから流れてくる放送が聞き取りにくい。	聞き取りにくいという指摘は、その都度危機管理室に情報提供を行っている。放送内容が聞き取れなかった場合は、防災行政無線テレホンサービスを活用いただけるよう広報紙などで周知する。	①
13	H30.6	交通安全に関する目標に対するアンケートの取り方について、イベント会場以外にも実施する方法を再考すべきではないか。	現在のアンケートは、「スクエアドストレート学習」会場で、参加者に対して行っている。次回開催時には目標値100%をめざして取り組む。今後は区民アンケート等さまざまな機会を活用してアンケートを実施する。	①

14	H30.7	新しい人が地域振興会(町会)に入らず、町会費を出さなくても、街灯は点いているといったような受益を受けて生活できる現実がある。町会費を払わないと受けられない受益者負担になっていけない限り、これから運営できないと思う。	転入者向けリーフレットを作成し、地域振興会(町会)をはじめ様々な地域団体の加入促進に取り組むとともに、地域振興会(町会)活動等に関する情報提供を広く区民に対して行っていく。	①
15	H30.7	地域活動協議会の立ち上げ以前から行っている事業が、現在は地域活動協議会の活動として行われているが、そのことが地域住民には伝わっていないことがある。	地域活動協議会の認知度向上のため、まちづくりセンターと連携して、様々な機会を通じて活動内容等の周知を図っていく。	①
16	H30.7	昨年実施された「TSURUMIC AWARD」はビジュアル面に評価の重点が置かれ過ぎていた。この評価方法が地域活動協議会の認知度向上につながるか疑問である。	一定の認知度向上につながったと考える。今年度は、より地域住民の関心度がアップするような企画を検討し、各地域活動協議会の協力のもと実施していく。	①
17	H30.7	地域活動協議会の事業でも、町会長が一番活動してくれているが、地域活動協議会の会議の場では地域振興会も構成団体の一つであるという認識にゆっくり変えていかないといけない。	地域活動協議会は、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境、文化・スポーツのすべての分野において、広く住民全般を対象として市民活動を行うことを目的としているため、民主的で開かれた話し合いを通じて、活動の糸口を見出していくことが重要である。	①
18	H30.7	地域活動協議会の役割は、高齢者への支援と考えるが、地域活動協議会の活動の分野に福祉がない。つなげ隊の活動が非常にわかりにくいものとなっている。事業の検証は出来ているのか。また、つなげ隊は地域活動協議会で役割が果たしているのか。	・委託先である鶴見区社会福祉協議会からその都度報告を受け、課題があれば協議を行っている。本事業を推進するにあたり、今後、地域活動協議会に対する一括補助にむけた検討をしていく。 ・地域福祉コーディネーター(つなげ隊)は、各地域活動協議会ごとに活動されており、各地域ネットワーク委員会の中心的な役割を担っていただいている。	① ②
19	H30.7	区民アンケートでは、つなげ隊の認知度が低いとのことだが、鶴見区全域での数値である。地域別の認知度を数値化すべきではないか。	区民アンケートの地域別データを分析・検討し、その結果を区政会議で提供していく。 なお、地域単位の福祉活動(ふれあい喫茶)などでの参加者アンケート結果によると認知度は高い。	①
20	H30.7	プレママクッキングについて、土曜日に開催したことにより、夫婦での参加が3組あった。料理教室に加え、胎児へのたばこの影響についても話ができて有意義であった。このような取り組みを続けてほしい。	プレママクッキングの他、様々な方を対象者に、内容を工夫し、食推協の皆さんと一緒に食育に関する事業を実施している。今年度は、男性のための料理教室を休日開催することで、働く世代の方へもアプローチしていく予定である。	①
21	H30.7	食育フェスタ・健康展の満足度について、参加者へのアンケートということなので、目標を少し上げてほしいと思う。	すこやかパートナー企業・関係機関の協力も得ながら、体験型のブースをより充実させ、参加者満足度100%をめざす。	①
22	H30.7	待機児童(入所保留児)について、校区別で資料を提供してほしい。	現在、住所別のみ作成している。 今後は、校区別の資料も作成し、ニーズ調査に役立てていくとともに、区政会議で提供していく。	①
23	H30.7	園庭や講堂等のない保育所に関して、グラウンドや区内施設等代替場所の提供はできないか。	保育所が運動会や発表会を実施するにあたり、近くの学校等の施設利用の希望があれば、施設に対し、区役所から協力依頼をすることはできるので、保育所に対して、その旨を情報提供していく。	①
24	H30.7	虐待通報について確認を行う家庭に対して、配慮が必要なのではないか。	虐待通報の確認に訪問する際には、周りの家庭に対して、誰が何をしに来たかはわからないように配慮している。また、通報された家庭に対しては、保護者の負担にならないよう、聞き取りを行う等の対応を心掛けている。	①
25	H30.7	愛 Love こどもフェスタで、保護者の方に対して、子育てサロンへの誘導をされたとのことであるが、効果検証はできているのか。	愛 Love こどもフェスタの開催前後の子育てサロンの利用者数を比較すると、開催後の方が利用者数は増加傾向にある。	①

26	H30.7	児童虐待に関して講演会や学習会を開催してもらっているが、受講しない人を掘り起こす必要があるのではないか。	講演会等に出てこない、出てこれない方たちこそ、支援につなげていく必要があると認識している。関係機関や地域と連携して、きめ細かい周知に努めていく。	①
27	H30.7	就学後の発達障がいに関する相談場所があまり知られていないのではないか。	就学後の児童を含め、発達障がいに関する相談も子育て支援室で実施していることを教育担当とも連携し広く周知に努めていく。	①
28	H30.7	学び舎つるみ等で、百歳体操もプログラムなどに入れていくと、より広まるのではないか。	今年度は台風により中止となった。今後も、いろいろな場面において取り入れていくことを検討していく。	①
29	H30.7	以前の区政会議で、自主的な生涯学習活動による書道の展示発表の場について意見が出ていたが、そういったところはあるのか。あるなら周知をしてはどうか。	区役所2階の区民ギャラリーをご利用いただけることを区HPで広報しているが、今後は、広報紙等も活用するなど積極的に周知に努めていく。	①
30	H30.7	生涯学習推進員連絡会は、今回、区役所と協働して家庭教育支援講座を一般向けに実施する。また、3月にも生涯学習ルームフェスティバル(活動発表会)を開催するが、生涯学習に関する認知度はまだまだだと感じる。	今回、家庭教育支援講座を実施する予定であり、広報周知に取り組む。また、3月の生涯学習ルームフェスティバル(活動発表会)のPR方法も検討するなど、引き続き生涯学習の認知度アップを図っていきたい。	①
31	H30.7	青少年「夢・未来」講座の協力企業について、参画することでメリットがあるというこのPRを行ったり、協力企業を前面に出して紹介してはどうか。	取組みについてはFBやHPで紹介しているところであるが、協力企業の名称・イベント名等についても積極的にPRをしていく。	①
32	H30.9	区は鶴見区社会福祉協議会(以下「区社協」という。)に「住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業」を委託しているが、情報や課題を区役所が共有できているのか疑問だ。地域で起きている課題、事業を行う区社協が抱える課題などは区に伝わっているのか。	「つなげ隊」を含む「住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業」で得られた情報や地域の課題について、区役所は区社協との定例会議や個別ケースで対応協議している。地域ごとの課題報告を受けると地域保健福祉戦略会議でも情報を共有し解決に向けて検討している。	①
33	H30.9	地域福祉活動は地域活動協議会が担っていかなければいけないというのは、当たり前のことだ。つなげ隊事業を区社協に委託している現状について、「地域福祉活動は地域活動協議会が担う」という方向で検討してほしい。		①
34	H30.9	鶴見区では地域福祉のコーディネーターとして「つなげ隊」を採用し、活動は区社協に事業委託している。地域に対して「つなげ隊」から活動報告や相談内容などの情報提供が、私の地域ではないように思う。	・地域福祉のコーディネーターとして配置した「つなげ隊」が、「地域の人」とのつなぎ役、「身近な相談窓口」として機能するよう、また鶴見区の福祉の取組に活かすことができるよう努める。 ・区役所が得た各地域の福祉課題などを地域に提供し、地域とともにカルテを作成する。	① ②
35	H30.9	「つなげ隊」や「あいまち」は、名前だけは聞き覚えがあるが、実際に誰がいるのかわからない。	これまで区広報紙で「つなげ隊」や「あいまち」を紹介する記事を掲載している(広報紙「つるみ」9月号でも掲載)ほかfacebookなどのSNSでも紹介している。今後とも広報に努める。	①
36	H30.9	児童虐待防止については、ステップファミリーに対して、何らかのフォローすることが最も有効な手段であると考え。	児童が6歳未満の転入世帯については、ステップファミリーも含め、全件、母子手帳の住所変更手続き時に転入面接を実施し、子育てに対する相談に対応しているが、今回のご意見を踏まえ、更なる対応を検討していく。	①
37	H30.9	平成30年度の取組みに、児童虐待防止活動の項目がなくなっているが、なぜか。	児童虐待防止の取組は当然取り組むべきことなので、運営方針の記載の有無に関わりなく実施すべきことと考えている。今年度も児童虐待防止につながるよう、あらゆるところで横断的に取り組んでいる。	①
38	H30.9	児童虐待に関しては、さまざまな担当に情報が入って、検討会議を行うまでにいろいろな部門が絡んでくるが、区の中で横軸を入れた対策が必要であると思う。区として対処方針を示してほしい。	児童虐待に関する情報はすべて子育て支援室に報告・集約される。その後、要保護児童対策地域協議会で情報共有のうえ、支援方針を検討・決定し、対応している。今後も、区役所内の他担当や関係機関等と連携を密に取って対応していく。	①

39	H30.9	自分自身の出産後に保健師が訪問してくれて相談にのってもらえたことは非常に安心感を覚えた。 子育てサロンなどに行かない、行くことができない保護者への支援として、年に1回でも何かの形で訪問する等できないか？	出産時の訪問のほか、3か月児健診時等に、子育ての悩み等の相談を受けるとともに、子育てサロンや子育て支援センターなどの情報提供を行っている。健診に来ない場合はすべてのお子さんの状況調査を行い、3歳児健診まで切れ目のない支援を行っている。更に支援が必要なご家庭には保健師が電話や訪問により相談を受けたり状況確認をしている。	①
40	H30.9	児童虐待防止については、職員だけでは限界がある。もっと地域連携すべきではないか。	各地域の民生委員、特に主任児童委員と一緒に、定期的に学校等と情報共有や支援について協議・検討を行っているが、もっと裾野を広げ、地域全体で連携した取組み等、方策について検討していく。	①
41	H30.9	市立小・中学校でのサポーター・ボランティア募集やファミリーサポートセンター事業などは広報紙に掲載されている。今後、教育委員会実施の元気アップ事業等を広報紙に掲載することはできないか。	元気アップ事業のひとつである図書ボランティアはサポーター・ボランティア募集として既に広報紙に掲載している。その他の元気アップ事業についても教育委員会とも調整のうえ掲載していく。	①
42	H30.9	避難所開設訓練とは別に、各町会でも防災訓練を単独でやっている。実際に地震が発生した時に、防災リーダーそのほか5人ぐらいが各町会からとられて、町会が手薄になると思うが、どう考えているか聞きたいと思う。	有事に備え、小学校での避難所開設及び運営、各町会での災害対応など各々の役割分担を決める必要がある。そのため地区防災計画の策定に早急に取り組むことが求められており、区としても積極的に支援していく。	①
43	H30.9	同報系無線のスピーカーが聞こえにくいとの話があり、地活協以外の問い合わせの窓口があればよいと思った。 台風時に、情報を得るためのアクセス先を教えてください。	同報系無線のスピーカーについての問い合わせ先は、区役所市民協働課防災担当になる。アクセス先としては、大阪市危機管理室のホームページを開いてもらうと、警報等の情報が得られる。鶴見区のホームページからもリンクができる。また、鶴見区もツイッター等で情報発信をしているので活用いただきたい。	①
44	H30.9	災害時一番大変なのは水の確保である。そのために、区の予算で、小学校や公園等に各地域1つ井戸を掘ることを提案する。	井戸の掘削についての法的規制や費用対効果などメリット・デメリットを検討している。	③
45	H30.9	種花ボランティア活動に予算措置があまりされていないのではないかと。熱中症対策としてお茶等を提供する予算はないのか。	種花活動における種や土代については、予算措置されているが、お茶はボランティアご自身で用意いただいている。 なお、一般的な熱中症対策としての予算措置を検討している。認められればボランティアにお茶等を提供することができる。	②
46	H30.9	民間の情報媒体と連携し、広報をすることはできないか。	現在も地元地域紙やケーブルテレビ等、メディアへの情報提供を毎月行っている。 また、区の子育てイベントを民間の地域子育て向けWEBサイトに掲載いただく等連携を図っている。今後も個別の情報提供や報道発表をより積極的に行い連携に努めていく。	①
47	H30.9	広報がフェイスブックやホームページなどに頼りすぎている。 もう少し回覧板や広報紙など手にとって見える広報をするべきではないか。	区としては、広報紙を柱としてフェイスブックやツイッター等の媒体を活用し区政情報を発信している。 特に広報紙は、非常に大きな柱として区内全世帯、全事業所に配布するほか、区民の皆様の手にとって読んでいただけるよう工夫し、情報発信に努めている。	①
48	H30.10	生涯学習ルームでもコーラスがあるが、「鶴見区で第九を歌おう」など、区民みんなが参加して歌えるようなイベントがあればと思う。	実施主体も含め、どのような対応が可能か検討する。	③
49	H30.10	いろいろな学びを、幅広い年齢層の方々に体験していただけるよう、今年度もいろいろな事業(11月10日 おもてなし茶会、11月17日 生涯学習セミナー「百人一首と競技かるた」)を企画立案している。 委員の皆さんにも是非お越しいただきたいので、周知・PRに努めてもらいたい。	幅広い層に学びを体験してもらうため、通常の広報周知に加え、チラシを「おもてなし茶会」は、区内小学校1年生全児童に、「百人一首と競技かるた」は区内小中学校の全児童・全生徒に配布する。	①

50	H30.10	現在またはこの1年のうちに生涯学習をしていない区民の割合が68.5%という数字であるが、生涯学習の概念からすれば、もっと多くの方が何らかの形で学んでおられるのではないか。生涯学習の概念をわかりやすく発信することや、学んでいる人たちの個々の活動情報をマッチングし、必要としている人につなぐ等の仕組みがあれば、地域の活性化というめざす方向に向かうのではないか。	区民アンケート結果では生涯学習をしている区民の割合が少なかったが、これは設問の意図が分かりにくかったためであり、実際の割合はもっと多いと認識している。今後、アンケートの取り方については検討する。生涯学習活動の充実や情報発信、学びを通しての交流が生まれるマッチングの仕組みづくりなどについて検討する。	②
51	H30.10	児童虐待に関して、区役所の担当だけで十分な対応ができていないのか心配である。	児童に対する支援は、区役所子育て支援室だけでなく、区役所の他部署(保健師や生活支援担当など)、児童が所属している保育所や幼稚園、小中学校のほか、こども相談センター等が連携して対応している。ケースによっては、民生委員、主任児童委員等にも協力いただいているので対応はできている状況である。	①
52	H30.10	こどもの居場所を一から自分たちで準備して、新しく始めるのは難しい。行政から、活用できる施設や食材などを情報提供されると事業につなげやすいと思う。	居場所開設の相談があった場合、利用できる食材や物資などの情報を提供している。今後も、新規立ち上げや運営状況等の情報を区社協と共有していく。	①
53	H30.10	要保護児童対策地域協議会(※)と連携して、真に支援を必要とするこどもの居場所づくりに対応してもらいたい。 ※児童虐待の早期発見や適切な保護、保護者や特定妊婦への適正な支援を図るために関係機関が協議する場	鶴見区では、こどもの居場所事業は始まったばかりで、今は土台づくりの時期ととらえている。今後、要保護児童対策地域協議会登録児童がスムーズに利用できる居場所となるよう、連携を図っていく。	②
54	H30.10	台風24号に伴う臨時避難場所開設では日頃から訓練をしている防災リーダーに連絡が欲しかった。防災リーダーも常時トランシーバーを携行していない。また、MCA無線とトランシーバーを連携した、連絡体制も再度検討してほしい。	今回は臨時的な自主避難場所開設のため、地域活動協議会会長に情報提供として連絡を入れており、防災リーダーには連絡を入れていなかったが、今後は、状況に応じて地域からの協力もいただきながら対応していく。MCA無線は区本部と地域との連絡用で、トランシーバーは地域内での情報収集等に活用してもらうものであり、地域防災連絡会の場で再度周知を図っていく。	① ②
55	H30.10	臨時避難場所において、ラジオの電波状況が悪く台風24号情報が聞こえにくかったので対策してもらいたい。また、自家発電装置等電源を確保してもらいたい。	性能がよい手回式ラジオの配備を検討しているが、SNSの活用も有効であることを広報していく。また、各避難所にガスボンベ式の自家発電機を配備しており、防災訓練時等で活用いただき、使い慣れていたいただきたい。	① ②
56	H30.10	災害時の臨時避難場所の開設等を含め連絡体制や対応をマニュアル化するなど再考してもらいたい。また、訓練には費用と時間がかかるので、机上訓練の実施を考えてみてはどうか。	連絡体制等対応について検討する。また、DIG(災害図上訓練)やHUG(避難所運営ゲーム)といった図上訓練は地域でも取り組んでおり、今後も活用していく。	① ②
57	H30.10	台風24号の際、他の地域の住民(校区外)が避難してきた。災害時に地域内の住民の避難に加え地域外の住民が避難してくるとなると、避難所が混乱する可能性があると思うがどんな想定になっているのか。	南海トラフ地震や上町断層地震の想定避難者数は出ているが、必ずしも地域住民が全員、避難してくるとは限らない。今回のような風水害における避難者数は想定されていない。自宅の安全が確認できれば在宅避難も考慮してもらいたい。なお、区災害対策本部長は避難者数の多寡に応じて避難所間の調整を行う。	①
58	H30.10	災害時地域貢献協力事業所の所在地・協力内容を地域と共有し、訓練参加も呼びかけていただきたい。また、小学校への避難途中にある協力事業所で何ができるか地域と情報共有等すればよいと思う。	災害時地域貢献協力事業所の中には、避難場所として利用の申し出がある事業所もあれば、利用が難しいとの回答をいただいている事業所もある。今後は、訓練参加を含めどのような利用が可能か再度調整し、地域と情報共有していく。	②
59	H30.10	今回、高齢者の方が避難に来られたが、風にあおられて危険に感じるがあった。災害の種類によっては自宅に留まってもらうことや避難するタイミングも違うと思う。	風雨等が強くなる前に、早めの避難ができるように周知していきたい。また、時間帯によっては、不要・不急の外出は控えていただくことを周知していく。	②

60	H30.10	地震により高槻市や茨木市で避難所開設された事例などを自治体職員へヒアリングするなどし、今後の取組みに活かすのは大事だと思う。	相手市の状況が落ち着き次第、大阪市の危機管理室がヒアリング等を行うことになる。2年前の熊本地震では、区からも応援に行き、現地で自治体職員へ聞き取りも行い、職員防災マニュアルの改定等の参考にした。	②
61	H30.10	防犯カメラは、交通安全なのか、犯罪防止なのか、どういう目的・順序で設置しているのか。	街頭犯罪の減少をめざし、安全で安心なまちづくりに必要と考え設置している。設置個所は、危険個所等の実情をよく知る地域に選定していただいている。	①
62	H30.10	防犯カメラのメンテナンスは地域の問題だが、地域での引継ぎがうまくいっていないことがある。誰が引き継ぐのか等、メンテナンスのルール作りが必要ではないか。	区役所から防犯カメラの鍵や地図を地域に渡している。その資料等を活用しながら、各地域でルール作りをしていただきたい。	①
63	H30.10	各地域均等に防犯カメラを設置するのではなく、その一部については、関係者で危険箇所について議論したうえで、設置してはどうか。	警察から各地域に対し、犯罪発生状況など情報提供もあり、危険箇所などは、地域が一番実情を知っているため、引き続き地域の実情に合った選定をしていただき、その地域要望に応じていく。	①
64	H30.10	自転車の乗り方のマナーが悪く、何度言ってもわかってくれない。自転車も講習を受けて許可書を発行し、許可書がないと購入できない仕組みができないか。	許可書による自転車購入の仕組みづくりは法的に困難である。スクエアードストレートは交通マナーを確認いただく有効な取組みであり、周知に努め、多くの方に来ていただけた。	①
65	H30.10	交通安全教室等に来る人は、大体交通ルールを守るので、それ以外の交通ルールを守らない人をどのようにして集めるかが大事だと思う。	交通安全教室実施時のアンケートで、これまで守っていなかったが今後は交通ルールを守るという意見もあった。今後も、交通ルールを守らない人も含め、多くの方に参加いただけるよう広報に努める。	①
66	H30.10	自転車事故で大きな金額を損害賠償請求された事例などを示し、交通ルールを守ることの大切さをアピールできればよいと思う。	中・高校生や子育て層などいろいろな世代に向けて交通安全教室などを実施している。高校生には賠償請求などの事例も含めて啓発している。引き続き関係機関と連携し取り組んでいきたい。	①
67	H30.11	鶴見区はメタボ該当者が多く、ウォーキングは効果があると思う。具体的な取組みは？年1回から、月1～2回などステップアップしていくプログラムも良いのでは？	ウォーキングには以前から取り組んでおり、昨年から鶴見緑地を活用している。回数など実施方法については参加者アンケートの結果を見ながら検討していく。	②
68	H30.11	社会福祉協議会が行う介護予防教室(ステップ教室)は、体操、小物づくりなど様々な内容を行っている。ウォーキング教室がコラボしてみるというのはいかがでしょうか？	ステップ教室は介護予防の講座であり、持病のある方の参加も多く、ウォーキングが難しい方も多い。メニューについて、今後区社会福祉協議会と検討していく。	②
69	H30.11	健康づくりは、やっている人はやっているが、しない人は全然していない。区として、啓発を行ってほしい。	色々な人に健康づくりに取り組んでもらえるよう、特に課題としている生活習慣病予防の観点を含め、内容を検討・工夫し周知を図っていきたい。	①
70	H30.11	百歳体操は集会所など色々なところでやっているが、メンバーがほしい。ふれあい喫茶と組み合わせるなど相乗効果を図ればよいのでは？	体操終了後、工作を行ったり歌を歌うなど、地域ごとに特色をもって取り組まれている。その特色を大切にしながら、取組みを進めていきたい。	①
71	H30.11	地域で百歳体操をビデオを見ながら実施しているが、区からもたまに来て指導してほしい。	百歳体操を地域で実施される際は、初年度立上げ時に4回、次年度以降は1回、希望により理学療法士、保健師の派遣を行っている。	①
72	H30.11	担い手の確保に対する解決策がない中で、いろいろな課題を拾いすぎないで課題を絞って検討してみてもどうか。	担い手の確保に向けて、引き続き取り組んでいきたい。福祉施策に関して、優先的・重点的に取り組んでいくべき課題を区社会福祉協議会、包括支援センターと連携し、スピード感をもって対応していく。	①
73	H30.11	地域の担い手対策として、ツルラボ・つるばた会議で交流を図るとしているが、何か具体的なものはあるのか。	先日のツルラボで、若者が地域の人とのつながりを実感したことなどの報告があった。ツルラボのように各地域の担い手が集う場づくりをこれからも作っていきたい。	①
74	H30.11	区社会福祉協議会に対し、公的な福祉サービスのはざまを埋める事業を新たに委託するのか。	現在、鶴見区で実施している有償ボランティア事業「あいまち」を引き続き周知・拡充していきたい。	①

75	H30.11	区社会福祉協議会に委託している地域福祉事業の取組みの中で出来たことの成果報告だけでなく、浮きぼりになった課題の検証が必要ではないか。	区としては事業報告を受けるとともに定期的に協議し課題は把握している。地域福祉は8050問題など課題が多岐にわたるため、「地域福祉カルテ」を作成し地域とともに課題解決策を検討していく。	①
76	H30.11	有償ボランティアの活動内容の類型化ができないか。	活動に関して部屋の掃除や庭の草ひき、家具の移動など一定の類型化は出来ている。活動者と依頼者のマッチングをきめ細やかに行い、福祉的なニーズに柔軟に対応している。	①
77	H30.11	地域福祉カルテは区役所だけでつくるのか。	区役所職員(市民協働、保健福祉)、3地域包括支援センター、区社会福祉協議会、まちづくりセンターなど関係機関と一緒に鶴見区地域健康福祉戦略会議の場で議論しながら作成していく。	①
78	H30.11	地域の人材は減ってきており、ワンルームマンションの住民は町会に入らない。 榎本地域では開発業者を呼んで、新築住宅の入居者に町会に入るようお願いしている。 区役所も業者が入居者に説明するよう言っしてほしい。	市民局がワンルームマンションの建築主(届出人)に、入居者に対する地域活動への協力の働きかけを行っている。その情報を区は地域に提供するとともに、区広報紙等への町会加入促進記事を掲載している。転入者リーフレットにも掲載予定である。	①
79	H30.11	地活協の役員になって1年。地域のことがよくわからない。どうすれば情報を入手できるのか。	各地域活動協議会の広報紙やHPから地域活動を知ることができる。また、区役所庁舎1階待合ロビーに12地活協の地域広報紙を掲示及び配架している。	①

※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
 ⑤その他